

磐城時報

編者 石城郡平町新田町十四番地 磐城時報社
印刷所 石城郡平町新田町十四番地 磐城時報社
代印所 石城郡平町新田町十四番地 磐城時報社
發行所 石城郡平町新田町十四番地 磐城時報社
電話 〇七七一 〇七七八 〇七七九 〇七八〇 〇七八一 〇七八二 〇七八三 〇七八四 〇七八五 〇七八六 〇七八七 〇七八八 〇七八九 〇八九〇 〇八九一 〇八九二 〇八九三 〇八九四 〇八九五 〇八九六 〇八九七 〇八九八 〇八九九 〇九〇〇

平町の電話

愈々其電式となる

廳舎改築を機会に

平郵便局は工費三十余萬圓を以て四丁目地内に新築される等であるが、十一月着工の豫定であるが同時に平局の電話は現在の電式を廢して共電式の設備に改める事になった。共電式は東北地方に於ては仙臺、新潟兩市のみでその他にはなく、同機械は交換に際して簡便確實である。

四倉繭市場成績

倉繭市場取引額左の如し。
▲二十三日 百二口、六百十九貫八百五十匁、四千二百四貫九十匁、最高七十四圓三十匁、最低六十圓、平均六十九圓八十匁
▲二十三日 百二口、六百十九貫八百五十匁、四千二百四貫九十匁、最高七十四圓三十匁、最低六十圓、平均六十九圓八十匁

また平の自動車

飯野で娘を轢く

而も路線外の運轉

無警察の状態に戦々恟々

飯野村宇北白土伊藤兼吉三女、同時に平區裁判所に慰養料の請み(十七)は去る十四日午前十一時頃自宅前荷車を挽いて通行する中、右自動車は許可路線中平町尼子自動車部の貸切自動車を無届で運轉したもので、最車が後方から進行し來つて追突、近自動車事故が頻々起り、地方しすみの顔面に全治十日間を要する重傷を負はせたので、その父兼吉は平警察署に告訴したが、警殆んど無警察も同様の有様で

月以來平町草野順平、諸根樟一、諸橋元三郎の諸氏にて協力編纂せる「磐城史料圖版集成」は、豫て東京にて謄製中の處、昨日を以て五百部出版を見るに至り、夫々献上の手續中なるが、殘部は縣下一般教育界有志學者等に實費五圓にて頒布すべく、内容は悉く貴重なる本郷土史の參考圖凡を百九十葉を掲載すと申込所平町(電話八〇七番)郷土社宛

諸根氏の磐城史料

出版

會では二十七日午前九時から午後四時迄村谷川瀬、真乘寺に農

開始以來好成绩である

大浦の米共同販賣

一般取引より遙かに高價

大浦村農會では郡農會並に平穀値を見てゐるに僅か五分強か、物検査所の應援をうけて昨年より一圓の安値で取引された事は、米共同販賣を開始し今日まで共同販賣の利益を證明するもの十數回之を行つたが販賣成績は東京價 地方價 共同價
十二月十五日 二二.〇〇
一月十五日 二二.〇〇
二月十五日 二二.〇〇
三月十五日 二二.〇〇
四月十五日 二二.〇〇
五月十五日 二二.〇〇
六月十五日 二二.〇〇
七月十五日 二二.〇〇

俺の公開狀(五)

一部石城民政黨員に誨ふ

こゝまで書き續けてきたが、夫れで尙且つ、警銀を擁護するために一部の黨員が、非難を以て曲解するならば、それ、批難する奴は勝手に批難し、惡意傳でもし、左様に事由を辯せしめて、疑念を持つ者に對しては、俺は是れ以上辯解する必要はないのだ、俺の氣持は高風亮節だ、何んと言はれても、最初の俺の氣持の中に發生した意志は、最後に此の欄に於て斷つて置

妻の前で借金を催促され憤慨して大亂暴

機關助手告訴さる

平治△四等五〇四小村春吉△五等五〇四鈴木木徳太郎△以下二十五等迄

水野家紛擾は全く嘘宣傳

嫉妬者の所爲

平治△四等五〇四小村春吉△五等五〇四鈴木木徳太郎△以下二十五等迄

クレイ射撃

参加者三十名

平鏡砲火藥店主催クレイ射撃會は二十三日、二十三日、飯野村谷川瀬の射撃場で行はれたが、参加者三十名、成績左の如し。
▲一等六二点長孝至△二等五八二点川口△三等五六点馬目太

少年庭球

澤渡校優勝

磐城新聞社主催石城郡少年庭球大會は二十三日平町元商業學校コートで開催したが、参加校は澤渡、好間、平、警崎、小川、赤井の六校で全勝は澤渡校の佐藤中島組で、優勝旗を獲得した。

近信

去十七日平出、同日午後十一時夜中雨をおかして三里半、余餘嶽の崩落を路破して吾妻山腹白布高湯温泉の客と相成候。女房のお供が幸ら山湯場、モンベの美人が多い山の湯場、山形縣白布高湯温泉、車屋旅館方、平町東天紅、九月十九日午後六時の消印あり、同温泉から出た消印なり、同氏は日清戦役出征の老勇士の元氣さすべき哉。

初秋の高月臺上で 青年の体育競技

若人の血躍りかへる

石城郡聯合青年團の体育大會は二十三日午前九時半から平町磐城中等學校に於て開催された團長唐土中學校長が挨拶を述べた後で審判長小野警中教諭が競技上に於ける注意をなし直ちに競技に移る、競技部は校庭に於てトラックは百米突第一豫選からフイルドは走幅跳から開始され柔剣道は道場に於てそれ／＼戦ひのスタートは切つて落とされた此競技は神宮競技に本縣豫選に出場を決定するだけに選手の意氣大いにあがりそれにコンデツションもよくレコード等も昨年等より遙に好成绩を示した。

▲フイルド 走高跳一等西田武雄(湯本)レコード五米四三、二等會田源一(大野)三等坂本智車(草野) 同走幅跳一等鈴

▲柔道部 一等荒川米四郎(好間第一)二等山岸銳太郎(白水)三等花澤行雄(平)四等坂谷豪平(江名) 五等石塚福治(好間第一)

▲百米決勝 一着西田武夫(湯本)二着坂本新一郎(江名)三着高木常彌(藤原)

▲千五百米決勝 一着片寄周平(草野)二着白水美一(好間第一)三着大樂喜(大浦)

▲二百米決勝 一着坂本新一郎(江名)二着齋藤安之助(小名濱)三着高木常彌(藤原)

▲八百米リレー 一着湯本智車(草野)二着高久チーム、三着磐

厳正なる各位の御觀察に訴ふ(一)

草野 七五三之助

御大禮博出品物決定問題に付ては聲明書に於て詳細發表したから、工業試験場長が去る十五日福島民友新聞紙上に公表した記事には應酬の必要がないと思ふ、特に私と場長と質問の際には幸にも出品者側の一人が會し、其翌日同人に會したるに、同人も場長の態度並に論旨を聞き、場長もあつたことありしを見て、別に本間氏の民友紙上の記事に反駁の要を認めないが然し左の五項に對しては各位の嚴正なる御批判を乞はんと

ハガキ集

一、投票歓迎

縣社祭典に際し鎌田女郎が手古舞せしめて大分論議されて居るが、女郎と雖も人間だ、技術者として當然取るべき任務であつたと信ずる。然るに場長はこの擧に出でざるは其の失當も甚だしきものと言はざるを得ない。此の如き無定見なる場長が去る十五日民友紙上に意見を吐いた左の五項に對して其責任何れにあるかを論じて各位の御批判を乞はんとするのであります。

場長の意見に依れば

- 一、實際組合員が組合の何物たるを理解せず。
- 二、組合長として大言壯語するの輕費を納付せず。
- 三、組合の存立を明かにせん爲め或は事業をなせば後日必ず各員間に紛糾を伴ふ。
- 四、組合存立の實史になし。
- 五、謝禮の沙汰止み云々。

築港で溺死

孫三郎(十九)は二十二日午後二時頃築港内に於て築留中の漁船から陸に上らうとして水中に飛び込んだまゝ心臓麻痺を起し溺死した。

漁夫の

古人が言ふた「心だに誠の道に叶ひなば祈らずとも神や守らん」である職業に貴賤あらうか、人間の精神が大切だ、新聞の報するところによれば彼女達は三日間も前から謹慎の意を表して居たと云ふのじやないか。(第三者より)(氏子生に答ふ) 鎌田の手古舞云々とは余りにモグラ過ぎた話ではないか、立派に伊勢

鳥御料理

平町南町平館隣り

蒲焼

電話四二四番

の大神宮様を氏神様に置く鎌田貸座敷各戸が、縣社位の金棒を引いた事は縣社には光榮と感謝せざるを得ないではないか。それに我身の程を知らず再三の問題にするとは余りにメクラの程もお笑しいではないか。そんな所に氣を廻すよりは今一步進んで、自分の足の元を固めはらひ給へ、淨め給へ。(大日本神主生)

拂込通知

當社第一回拂込は左の通りに決定致候間同日迄御拂込被下度候

一、期日 十月五日
一、場所 磐越銀行 平銀行
本支店出張所

株式 平魚市場
會社 平魚市場
發起人總代 加納五郎

御大典記念品景記典大御
入名念記筆年萬ケツサコ

壹貳參 號號號
特特特 特特特
價價價 價價價
金金金 金金金
圓圓圓 圓圓圓
拾拾拾 拾拾拾
也也也 也也也

堂地天倉高 町平城磐

景品	數量	抽籤方法	抽籤場所	抽籤日期
十八金厚側瑞西製拾石入	三個	在平新聞記者立會嚴正施行ス	公會堂	特價自昭和三年九月一日滿二ヶ月日昭和三年拾月卅一日月間
クロム側拾形瑞西製	五個	御即位式當日當籤者各位ニ通知ス		
最新式置時計	十五個	抽籤發表一ヶ月以内		
舶來ニツ折シース	五三個			
弊店名入手拭	五三個			
本特賣抽籤ニハ全部空籤ナシ	殘全部			

蒲鉾賣出し廣告

夏期氷水販賣中は御引立に預り豫期以上の盛況を見て終了するに至つた事を厚く御禮申上げます。今回氷水販賣終了と同時に例年の如く蒲鉾製造を開始致します。から倍舊の御用命の程懇願致します。

蒲鉾 (材料精選、風味絶佳)
さつなまあけ (お土産品として適入一個六十錢)
御大典記念全國商工博覽會於銀盃受領
平町二丁目 藤市蒲鉾店
電話三〇五番